

CVIT2023 参加報告

華岡青洲記念病院 山口隆義

皆様こんにちは、華岡青洲記念病院の山口です。私事ですが、長年住んでいる自宅の外構を昨年秋にミニリニューアルし、今年は庭でBBQを沢山しよう！と思っておりましたが、その気持ちの熱量を上回る暑さで、なかなか敢行できずにいる今日この頃です。

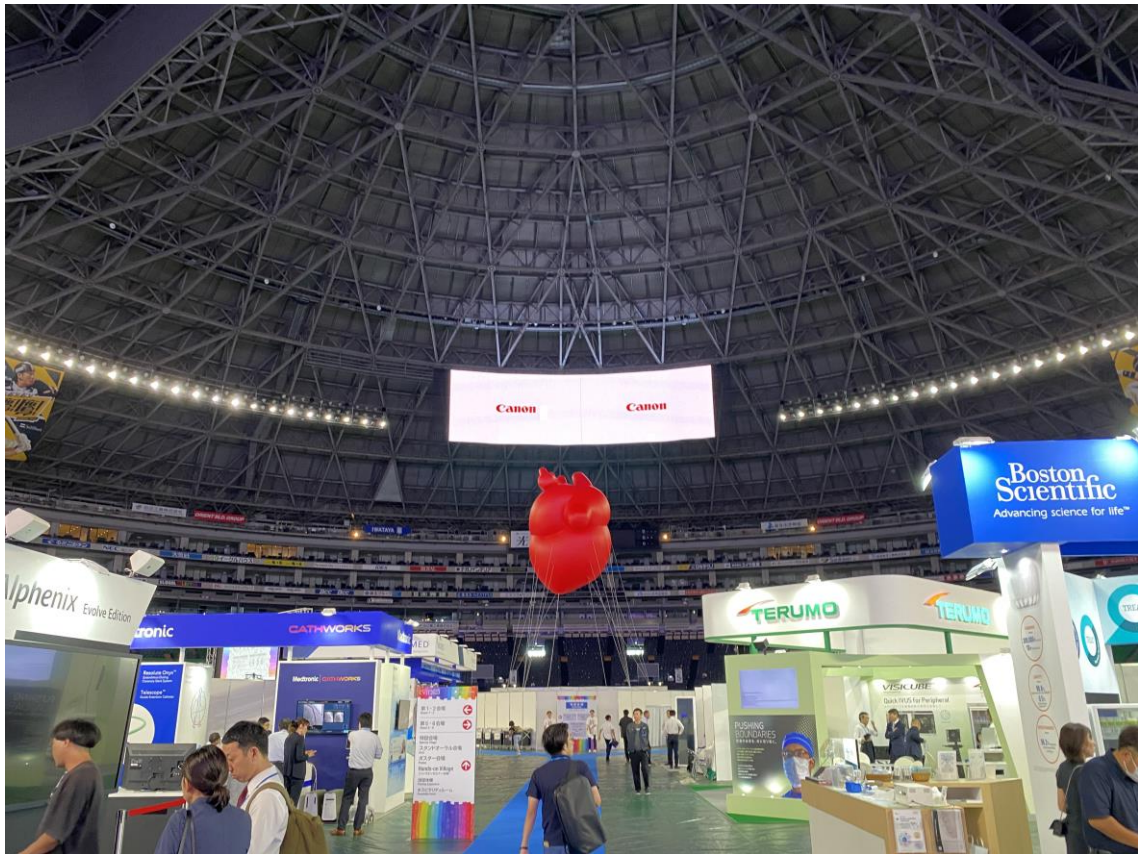
さて、今年も CVIT に参加して参りました。本年3月に開催された日本循環器学会に引き続き福岡での開催でしたが、会場は福岡ドームという事で、とても楽しみにしておりました。実は2015年に開催された CVIT も福岡ドームでした。その時はドーム内がとても暑くて少し大変だったと記憶していましたが、今回はこの猛暑にもかかわらずドーム内はとても快適でストレスなく参加出来ました。

そんな CVIT ですが、ガイドライン上、冠動脈 CT 検査が虚血性心疾患の診断においてファーストラインになったという事で、今年はメディカルスタッフ側だけではなくメディカルの方でも冠動脈 CT のセッションが多くプログラムされており、大変な盛り上がりでした。大会長の横井先生からは、展示会場に是非 CT の実機を持ち込んで欲しいとの要望があったようで、それに答えたのが、我らがキヤノンメディカルシステムズでした（写真参照）。

私に与えられたお仕事は「CT First 時代～心臓 CT 画像から得られる情報を共有し治療に活かそう～」というセッションで、“心臓 CT における石灰化病変の攻略法～診断・PCI に活かすための攻略法～”という演題で発表させて頂きました。石灰化は今でも狭窄病変の診断には厄介ものですが、ADCT による石灰化サブトラクションによって診断能が向上する事や、PIQE に小焦点撮影を組み合わせると、石灰化部位の描出能力が向上する事などを報告しました。さらに治療に活かす取り組みとして、石灰化の分布からロータブレードの適応を予測できる事や、IVL の適応を決定する OCT また

は IVUS による石灰化スコアを CT で置き換える可能性についてもお話しさせて頂きました。また、もう 1 つ「CT-guide PCI の可能性を考える」というセッションの座長を CRF の松村さんと共に務めました。昨年 SCCT からも「Pre-procedural planning of coronary revascularization by cardiac computed tomograph」というガイドラインが出ておりますが、今回のテーマは、冠動脈ステント治療に用いられている血管内イメージングの代替えとしての CT 画像の可能性について考えるという非常に難しい内容でした。ですが、各演者が前向きに検討され、今回の結論としては CT ガイドによるステント治療は可能であるだろうという事になりました。実は、来年の CVIT は札幌で開催されます。是非、来年も同じテーマのセッションを提案し、継続的に議論をしていきたいと思っています。そのほかでは、アンギオ画像から得られる virtual FFR の現状やその可能性に関するセッションもあり、FFRCT も含めて wire FFR からの移行を考える方向性が少しずつ議論されつつある印象でした。

来年の札幌開催に向けて、これから準備が進んでいく所ですが、今回の福岡開催に負けないように、メディカルスタッフ側のプログラムを充実させたいと思っております。みなさまのご協力およびご参加を、どうぞ宜しくお願い申し上げます。



PayPay DOME の会場：中心には心臓の形をしたバルーンがあり、その上の大きなビジョンには Canon のロゴが！



展示されていた Aquilion ONE / PRISM Edition と共に記念写真